『空海の大日如来像』再現

讃岐国分寺住職　大塚純司より

空海の大日如来像とは

空海は9世紀前半、東寺講堂に立体曼陀羅の本尊として独自の姿の大日如来像を造りました。しかし1486年に文明の土一揆によって焼失してしまいました。空海が思い描いた大日如来像の姿とはどのようなものだったのでしょうか？

その特徴が同寺の寺誌『東宝記』（国宝）に記録されています。その姿は、①蓮華座の下に八体の獅子を置く、②光背に金剛界三十七尊を備える、③五仏を十字形に配する冠を戴く、というものです。これらの特徴を全て備えた像はこの世に一体も現存しません。この複雑で独特な仏像の姿には、空海が唐から持ち帰った最先端の密教思想と、国家の平和と国民の幸福への切なる願いが込められています。この仏像はいわば、空海の精神の純粋な結晶なのです。

讃岐国分寺は彫刻家大森暁生氏に依頼し、2013年よりこの像の史上初となる再現に取り組んでいます。本展覧会にて展示中の八体の獅子は、その仏像の蓮華座の下に座して本尊を守護する八大明王です。

讃岐国分寺住職と大森暁生

参拝者に勧進をする様子

発願のきっかけ

きっかけは約十年前、東日本大震災が日本中の人々の心に大きな変化をもたらした年の冬に遡ります。あるご家族がお参りに来られました。ご両親と十歳ぐらいの娘さんでした。娘さんには重度の障がいがあり、寝台状の車椅子に寝ていました。きっと癒しや救いを求めてお参りに来て頂いたのでしょう。にもかかわらず、お父さんは苦悩の表情を浮かべ、眉間には深いしわが刻まれたままでした。私はご家族の期待に応えられていないことを、申し訳なく思うと同時に、僧侶として力不足を恥ずかしく感じました。そこで、あのお父さんの眉間のしわを消してあげられるような体験を提供できないだろうかと、答えを探しつづけました。そんな中で2012年末、彫刻家大森暁生氏の作品に電撃的に出会いました。傑出した技量とセンスはもちろん、何より作品に宿る本物の命の存在を感じ「この人に仏像を造ってもらえば、血の通ったすごいものができるに違いない！」と直感したのです。

これまでの経緯

そこからは全てが大きな力に導かれるかのように進みました。まず、空海の失われた大日如来像のことを偶然、文献で知り、その再現を決意しました。次いで、大森氏に連絡し、2013年の春に東京で初めてお会いしました。出会った瞬間から不思議なほど意気投合し、制作依頼をご快諾いただき、仏像を造ることが決まりました。

空海の理想を再現することは困難を極めましたが、一切の妥協を排し、より素晴らしいものを造ろうとお互いに全身全霊を注いできました。大森氏は工房でスタッフとともに日夜制作に悪戦苦闘する一方、私は参拝客に計画を説明して制作資金を募る勧進を何千回と繰り返しました。完全な立体作例が存在しない三十七尊を制作するにあたっては、私が全てのポーズを実演するなどして、二人三脚で課題を乗りこえてきました。

また突然のコロナ禍によって勧進が出来なくなるという事態にも直面しましたが、クラウドファンディングに挑戦するなど新たな勧進の道も模索しています。現在、全体構造を組み終え、本尊の姿も確定し、制作は今まさにクライマックスを迎えています。

讃岐国分寺の概要

[境内] 金堂礎石越しに本堂を望む

[仁王門と門被りの松]

[本堂] 鎌倉時代建立の国指定重要文化財

[四国最古の釣鐘] 国指定重要文化財

[大師堂] 弘法大師像

香川県高松市に所在する真言宗御室派の寺院。四国八十八ヶ所霊場の第八十番札所として、弘法大師信仰による遍路修行者の信仰をあつめています。創建は奈良時代、聖武天皇の勅願(741年)により、国家の平和と国民の幸福を願って全国に建立された国分寺のひとつです。聖武天皇は、当時相次いだ自然災害や疫病（天然痘）の流行、飢饉や内乱などの国難に対して、仏教の力によって国を守ろうと考えたのです。

讃岐国分寺は創建当時の位置にほぼ完全な形で残る金堂礎石と七重塔礎石をはじめ、奈良時代の遺構をよく留めることから、境内の全域が日本国政府により『特別史跡』（史跡のうち学術上の価値が特に高く、わが国文化の象徴たるもの）に指定されています。日本の特別史跡は全国に63件あり、四国では讃岐国分寺が唯一の存在です。現在、讃岐国分寺の周囲の土地も史跡公園として整備されており、石で作られた創建当時の伽藍の1/10スケールの精巧な模型や、奈良時代の僧房跡の遺構が展示されているほか、史跡地に隣接して出土遺物を展示する資料館も併設されています。

高松市国分寺町は全国屈指の黒松盆栽の生産地であり、讃岐国分寺境内にも黒松の巨木が林立し、山門前では見事な門被りの松が参拝者を出迎えており、創建時の礎石と松の巨木による独特の風景は、讃岐十景にも選ばれる香川県を代表する景観です。

保有する文化財としては、本尊（平安時代、一木造りの仏像としては四国最大）、本堂（鎌倉時代、木造の仏堂として四国最大規模）、銅鐘（奈良時代、四国最古の釣鐘）の三件が文部科学大臣により国の重要文化財として指定されています。

讃岐国分寺公式サイト
https://sanukikokubunji.jp

仏像づくりへの
ご参加のお呼びかけ

仏像は、人々の力を合わせてつくることにこそ、その本来の意義があります。
讃岐国分寺では、現在、仏像制作のためのご寄付を募集中です。
また、インターネットにてご支援を募るクラウドファンディングを
READYFORにて開催中です。

今のような時代だからこそ、この仏像が必要で、
それによって魂が震えるような感動を味わっていただきたい。そして、

“この世界は生きる価値がある、あなたの人生は生きる価値がある”

というメッセージを伝え、見る人の心に希望の灯を灯し、
明日を生きる力にしていただきたい。
それこそが、空海が当初の仏像に込めた思いであり、
聖武天皇が国分寺建立に込めた思いであると考えます。

五百年ぶりの「空海の大日如来像再現」のストーリーに、
あなたもぜひ当事者としてご参加ください。
今このプロジェクトは、あなたを必要としています。
ご来場、ありがとうございました。合掌

讃岐国分寺住職　大塚純司九拝

クラウドファンディングサイト READYFOR
https://readyfor.jp/projects/sanukikokubunji_02

#空海の大日如来像